

# 幼保小連携を通して 子どもを育む ～読み聞かせ(読書 活動)を通して～

やすらぎ保育園  
京急キッズランド黄金町保育園  
みなみマーノ保育園  
中村愛児園  
南吉田小学校



南吉田地区

# テーマ設定理由

- **外国人集住地区である南吉田地区には、保育園、幼稚園、小学校、中学校問わず多くの外国につながる園児、児童、生徒が在籍している。**
- **家庭内言語は母語という子どもたちも多く、園や学校での読み聞かせは、語彙を獲得し、日本語理解を促進する意味でも価値のある活動であると考える。**

# 今年度の重点課題

絵本の読み聞かせをテーマに

職員合同研修会を実施

1年目

園児児童の相互訪問を実現

2年目

架け橋カリキュラム研修を実施



# 推進内容

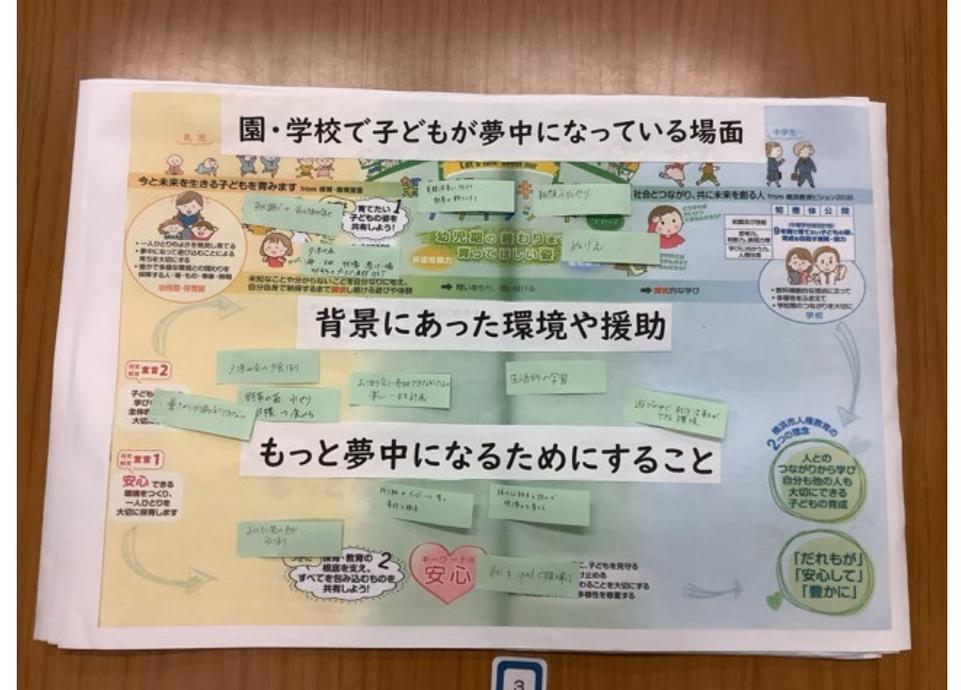
時期	内容
4月～	推進委員会(担当者間の連絡会)
	園児が学校図書館を訪問
7月	職員研修①架け橋カリキュラムワークショップ 職員研修②人権研修会 (講師を招いての研修)
9月～	小学校児童が園を訪問し読み聞かせを実施
10月～	園児が学校訪問し、通常の交流活動
1月～	園児が学校訪問し、小学校体験
2月	推進委員会で振り返りと次年度計画作成

# R7職員合同研修会① 「架け橋カリキュラムワーク ショップ」

7月22日

講師 鎌倉女子大学短期大学部  
武山朋子先生

参加 30人  
推進地区学校・保育園  
+しろばら保育園



# R7職員合同研修会①

## 「架け橋カリキュラムワークショップ」



### 内 容

- (1) 絵本の読み聞かせ、読書活動事例紹介 (各園・学校)  
推進地区活動の成果共有
- (2) 講師講評 10の姿の共有
- (3) 年長児の架け橋カリキュラム事例報告(しろばら保育園)
- (4) 1年生の架け橋カリキュラム事例報告(南吉田小学校)
- (5) 架け橋カリキュラムデザインシートを基にしたワークショップ
- (6) まとめ 鎌倉女子大 武山朋子先生

# R7職員合同研修会② 「人権研修会」

7月24日

講師 横浜中華学院  
校長 杜文劍氏

参加 40人  
人権地域校ブロック学校  
近隣保育園、幼稚園





興味津々で読みきかせをきく園児たち

図書館司書による絵本の読み聞かせ



図書館での本探し

教室で1年生の読みきかせをきく園児



図書館で保育士の読みきかせをきく園児

# 1年生の教室訪問



読み聞かせ後に1年生の教室を訪問。  
学習の様子を見る園児たち。

園児が算数のお勉強をする1年生の様子を「どれどれ」とのぞき込みます。



最後は「がんばれ～」とエールを送ってくれました。

# 図書委員会児童が園で読み聞かせ



読み聞かせ後に本のプレゼントを渡しました。

連携園におじゃまして読み聞かせをする図書委員の児童。緊張気味です。



# 図書委員会児童が絵本のキャラクターをプレゼント



読み聞かせ後に図書委員児童がパンどろぼうのぬいぐるみをプレゼントします。



絵本のキャラクターが連携園に旅立っていきました。

## 2年目の成果【子どもたちの様子】

- ・昨年度の年長児が小学校と交流する様子を見ていた経験から、小学校に行くことを楽しみにする姿が見られた。
- ・1年生の教室を見学することで、小学校に対する安心感をもつことができている。
- ・1年生の授業の様子を見学したことで学校でのイメージが少しついたようで就学を楽しみにする言葉が聞かれた。
- ・1年生は年長児との交流を楽しみにしており、「よいところを見せなくちゃ」と張り切って読み聞かせの練習をする姿があった。
- ・懐かしい出身園の先生と再会し、手を取り合って喜び合う姿がとても印象的だった。
- ・小学校から帰園後に「楽しかった」「また行きたい」との声が聞かれた。

## 2年目の成果【読書活動】

- ・図書館訪問で「あの本はあるかな」と楽しみにする気持ちが高まり、継続的な体験の大切さを改めて感じた。
- ・図書館では本の多さにとても驚いていた。また沢山の本の中にも保育園にある本があることで親しみを感じていた。
- ・図書館で本を探したり、選んだりする楽しさを味わうことができていた。「刺激が欲しいんだ〜」と怖い本コーナーへ一目散に走る様子はとてもかわいかった。
- ・図書館で園児が本を見ながら「これ『を』だよね?」と言ってひらがなを確かめ合う様子が見られた。外国につながる子もひらがなに興味をもてたようである。
- ・園でも絵本を進んで読むようになり、自分でカードを書いて絵本紹介を楽しんだ。
- ・絵本を通して文字に興味をもち、ごっこ遊びの発展に繋げるように保育を行った。
- ・絵本やぬいぐるみをととても気に入り日常の遊びや読み聞かせの中で親しんでいる。
- ・図書委員児童は園で読み聞かせをするため一生懸命練習し、披露することで自己有用感や自己肯定感などの社会情動的コンピテンシーを高めることができた。
- ・パンどろぼうのぬいぐるみは園でも学校でも共通して人気者になっている。

## 2年目の成果 【 職員の意識（変化）】

- ・去年から継続して幼保小連携に関わってきた職員は、小学校に気軽に連絡や相談ができるようになったと感じている。
- ・架け橋カリキュラムの研修を通して小学校との情報交換や対話の大切さを感じた。
- ・架け橋カリキュラムワークショップを通して園で取り組んできたことが学校生活にもつながり、力になっていくことがわかり意識が高まった。
- ・夏の架け橋カリキュラムワークショップで園での活動経験が学校で継続されていることを知り、モチベーションが上がったので、今後もこのような機会をもてるとよい。
- ・架け橋カリキュラムワークショップを通して、園での取組や読み聞かせの様子を知ることで、カリキュラムをどう変えていけばよいかヒントを得ることができた。

## 2年目の成果 【小学校側から感じた成果】

- ・保育園の先生方の子どもたちへの接し方、声のかけ方、読み聞かせをする様子などを見ることができとても勉強になった。
- ・新1年生が入学前まで過ごしている環境を知ることができた。
- ・1年生に読み聞かせをすると、子どもたちから「その絵本保育園にもあった。」  
「保育園で読んでもらった。」とよく聞いていた。実際に保育園へ行き隙間時間にたくさん読み聞かせをしていることを聞き納得した。
- ・学校図書館に来館した外国ルーツの子どもたちに外国語の本を紹介した。母国語の本があり、とても喜んでいた。
- ・5年生の図書委員が保育園を訪問し「来年度待っているね」と言っていた。また、園児の図書館訪問が定着することで、卒園生が休み時間に園の先生に会いに来るようになった。在校生にはとてもよい経験だと思う。
- ・図書委員が保育園に読み聞かせに行くことはとても貴重な体験だと感じる。
- ・園児の図書館訪問は中休みなることが多いため、在校生と一緒にいるが違和感なく過ごせており、お互いにとってよい経験になっている。

# 来年度に向けて

- ・年間を通してコンスタントに訪問や関わりがもてると、より深い連携につながると感じている。
- ・小学校1年生が実際に使用している教科書や教材等を保育園に置き日常的に触れられる機会があると、小学校生活へのイメージがより具体的になり、安心感につながるのでないかと考えている。
- ・学校の図書館利用を計画的に取り入れていきたいと思った。
- ・引き続き、様々な絵本を通して遊びから学んだり、豊かな言葉を育むことができるように継続していきたい。
- ・交流の頻度を増やしたいが思うようにいかなかった。園内での幼保小連携事業に対する意識づけに温度差があるので、職員会議等での発信をもっと充実させていきたい。
- ・学校での子どもの姿が保育の参考になった。
- ・学校全体で歓迎してくれてとても嬉しかった。